

「越前市工芸の里構想」の報告について

越前市の伝統産業は、越前箆笥が平成25年12月末に国の伝統的工芸品に指定され、越前打刃物では平成25年・26年と2年連続で新規開業者が誕生し、海外への販路も拡大しております。

また、越前和紙では「製作用具及び製品」が国の重要有形民俗文化財に昨年3月に指定されるとともに、17世紀のオランダの画家レンブラントが版画作品に越前和紙を使用していた可能性の高まりや、さらに越前和紙がユネスコ世界無形文化遺産登録から外れたことは大変残念でありましたが、団体認定への推進など新たな動きも芽生えてきております。

このような中で、工芸の里構想策定会議では、越前市から要請を受けた10人の委員で構成し、昨年4月22日に第1回の会議を開催し、伝統技術の継承・後継者の育成・新商品の開発・販路の拡大など各産地の活性化と、産地連携による観光振興を図るために、全6回に渡り議論を重ねてまいりました。

今回報告します工芸の里構想の特徴としては、越前市の伝統工芸に共通するターゲットゾーンを「ハンドメイドの高級実用品」と定義づけ産業活性化の中心に据え、かつ、それぞれ産地の産業ビジョンに限定されないように、

- 「クラフトマン（職人）が生き生き仕事するまち」＝産業振興
- 「クラフトツーリスト（旅行者）が滞在するまち」＝観光振興
- 「クラフトシチズン（市民）が豊かに暮らすまち」＝生活の質の向上

の3つの柱を横軸に、それぞれの産地を縦軸に備えることで、伝統産業全体の共有・連携による目指す姿や振興策を整理しております。

さらに、越前市の観光コンテンツを伝統工芸と歴史資源と位置付けるとともに、新幹線（仮称）南越駅を中心とするゾーン連携に関しても整理しております。

工芸の里構想では推進期間を平成27年度から10年間とし、前期の平成31年度までの5年間の重点期間として位置付けております。

今後、市におかれましては半世紀に一度の「まちづくり基盤整備の推進」として、新庁舎建設や中央公園の再整備、福井しあわせ元気国体開催に向けたスポーツ施設の再整備などを控え、さらに平成32年度の東京オリンピック、平成34年度に前倒し決定された北陸新幹線敦賀駅までの開業などを控えております。

これら大きなプロジェクトにおける越前市への波及効果を最大限発揮していくためにも、市民や産地の意見を十分に取り入れていただき工芸の里構想の着実な推進をお願いして、工芸の里構想策定会議からの報告といたします。

平成27年2月20日

越前市工芸の里構想策定会議